

## EGGPLANT

エッグプラント  
那須ファミリー  
ホームスクール  
通信 No.10  
2005.5.1



## 人間ってなにもの？

この一年間、この「ホームスクール通信」は主に、ホームスクールでどのような活動をしてきたかを紹介してきました。校外学習が多いと思われる方が多いと思います。

これからは、ホームスクールを行う意義や基本的な考え方も少しずつ紹介したいと思います。

今回は、「聖書が語る人間の姿」です。パソコンを使うときには、その性能、長所、短所などをよく理解しなければ、有効に用いることは難しいと思います。文字を打ち込むだけの単純作業であれば、今は販売中止となったワープロ専用機の方が便利でしょう。しかし、パソコンなら様々な変化をつけることができます。それもパソコンの奥深さを理解すればこそ可能なことです。同様に、人間を教育していくためには、まず「人間とは何か」という根源的な問いを考えていかなければなりません。ここで哲学を論議するつもりはありません。私たちが信頼している聖書がどのように語っているかを紹介するに留めます。

創造主の前における人間の姿をイエスは次のよう

なたとえを用いて解き明かしました。

け、旅に出て行く人のようです。

彼は、おのおのその能力に応じて、ひとりには五タラント、ひとりには二タラント、もうひとりには一タラントを渡し、それから旅に出かけた。五タラント預かった者は、すぐに行って、それで商売をして、さらに五タラントもうけた。同様に、二タラント預かった者も、さらに二タラントもうけた。ところが、一タラント預かった者は、出て行くと、地を掘って、その主人の金を隠した。

さて、よほどたつてから、しもべたちの主人が帰って来て、彼らと清算をした。すると、五タラント預かった者が来て、もう五タラント差し出して言った。『ご主人さま、私に五タラント預けてくださいましたが、ご覧ください。私はさらに五タラントもうけました。』その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさん物を任せよう。主人の喜びとともに喜んでくれ。』二タラントの者も来て言った。『…さらに二タラントもうけました。』その主人は彼に言った。『よくやった…主人の喜びとともに喜んでくれ。』

ところが、一タラント預かっていた者も来て、言った。

『ご主人さま。あなたは、詩かない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。私はこわくなり、出て行って、あなたの一タラントを地の中に隠しておきました…』ところが、主人は彼に答えて言った。『悪いなまけ者のしもべだ。私が詩かない所から刈

り取り、散らさない所から集めることを知っていたというのか。だったら、おまえはその私の金を、銀行に預けておくべきだった。そうすれば私は帰って来たときに、利息がついて返してもらえたのだ…』

(マタイの福音書)

人間は、神から賜物を授かってこの地上に置かれていると言われています。このたとえの「タラント」は、私たちが「テレビのタラント」というときに使っている言葉の語源になっているものです。このたとえでわかるように、昔はお金の単位でしたが、「才能」という意味が付け加わっています。

人は生まれながら違う才能・能力を持っていて当然なのです。神が主権をもって定められたゆえに、人と比べて落ち込む必要はないですし、人より優っていると高ぶることは不必要どころか、愚かなことです。また、「才能が開花する」と言うように、案外自分にとりだけのを与えられているか気づかなかつたり、引き出せなかつたりすることが多いのです。

また、人の人生は生きっぱなしではありません。与えられたものをどのように使ったかが問われます。それを正當に評価できるのは創造主だけです。その基準は、どれだけ儲けたかではなく、どれだけ主人の気持ちを理解しつつ、忠実に管理・運用しているかということです。(五タラント、二タラント儲けたしもべたちに対する主人の賞賛は全く同じであることに注目してください。)

実は、ホームスクーラーの目標はここにあります。「悪いなまけ者」にならず、創造主から委ねられたものを忠実に使っていくことを、幼い頃から学んでほしいと願っています。それが聖書の言う「知識より知恵を大切にすること」なのです。

## 「こんなことしました！」 行事報告

### 四月

- 四〜六日 東京デイズニールゾート旅行  
 九日 結婚式（Y兄妹）  
 十日 ピアノの発表会（こども文化センター）  
 十四日 造幣局「桜の通り抜け」  
 十五日 M・C・エッシャー展（大丸百貨店）  
 十六日 映画「シュレック2」（こども文化センター）  
 十九日 長居植物園  
 二十九日 長居公園（スポーツ）

### の読書コーナー

#### 「指輪物語」

この物語は「二十世紀最高の文学」といわれて何万人という人に親しまれています。映画「ロード・オブ・ザ・リング」と題して世界中で大ヒットしていましたがあれは原作がもともといいから、といっても過言ではないでしょう。

J・R・R・トールキン著

スケールの大きさ、綿密な描写、細かい人物設定など著者が何年もかかって書いたというのにじみでいて何回読んでも新たな発見があります。全三巻です。

第一部「旅の仲間」：暎王サウロンが作った世界を滅ぼすパワーを秘めた指輪、偶然にしてその「一つの指輪」を手にしたホビット族のフロドは人間、エルフ、ドワーフ、魔法使いたち九人の勇者とともに滅びの山に捨てに行きます。途中で様々な試練や犠牲がありながらも周りの者に助けられ、突き進んで行く主人公達の姿が、いきいきと描かれています。

原作を読んで映画を見た人は分かると思いますが映画では原作をかなり削っています。奥が深く、登場人物の個性味あふれるエピソードなど、あらずじを知り、映画を見たことがある人もぜひ読んでもらえたらいいと思います。

（次号では第二部、第三部を紹介します。）



長居植物園で、真良樹のカメラで撮影

### ピアノの発表会

H

四月十日に子ども文化センターでピアノの発表会がありました。初めにリハーサルがありました。もうその時から胸がドキドキしていました。三回も演奏があるので大変でした。妹のRと「むすんでひらいて」をひいたり、Nと「富士山」をひいたり、一人で「乙女の祈り」をひいたりしました。

Rは、はじめての出演なのに「みんなのまえてひけるからうれしい」といっていました。私は家にあるピアノより舞台にあるグラランドピアノのほうがずっとけんばんがきたいので、まちがえたらどうしようと思っていました。本番では初めの方は少しすべってしまいました。あとはいぶ上手にできたと思います。

最後にひいた人はとても上手にひいたので「どうしたらあんなにうまくひけるのかな。」と思いました。私ももっと練習してひけるようになりたいです。

### 編集後記

四月に、Mが中学入学のお祝いをかき集めて、デジカメを買いました。今まで我が家で使っていたものより、軽くて、小さくて、性能よくて、動画も取れて、おまけに値段も半分以下です。さっそく取りまわって、腕を上げています。相手がいやがる場面をとって、兄弟げんかのもが増えたことが玉に傷です。

一面が文字ばかりで、読みづらくなってしまうことが気がかりです。これでも言いたいことのほんの一部なのですが…